

真校だより第120号 令和7年3月号

ふきのとう

令和6年度 新庄神室産業高校 真室川校 卒業証書授与式



令和7年3月3日（月）に、真室川町長新田隆治様をはじめとする多数のご来賓のご臨席を賜りながら、令和6年度新庄神室産業高等学校真室川校の卒業証書授与式が挙行されました。分校となって10年目の節目となる卒業式で、7名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。齋藤潤弥校長先生は、「人生とは幸せや夢を追い求めるものであると思う。経済的な豊かさばかりが重要視される風潮があるが、人と人が心を通わせ価値観や感動を共有するような心の豊かさを大切にしたい。そのために、卒業生のみなさんには自他双方のありのままを受け入れる「受容力」と、物事の本質や奥に潜む意図などを汲み取る「洞察力」を身につけて欲しい。そして、周りの人に愛される生き方で、幸せな人生を歩んで欲しい。また、真室川校は県内で最も生徒と教師及び地域の方々で濃密に接している学校である。将来にわたり、みなさんにとって真室川校が未永く心のよりどころであるように願っている。」と述べられました。7名の卒業生諸君、卒業おめでとう。希望に満ちた未来へ歩みを進めよう。

令和6年度表彰式



3月2日（日）に、3年生の表彰式が挙行され、伊藤琉伽君が最上育英会賞、荒川舞桜さんが精勤賞、佐藤颯斗君が多読賞をそれぞれ受賞しました。生徒たちの努力が報われるというのは嬉しいことです。これを自信にして、今後もさらに飛躍していきましょう。

令和6年度同窓会入会式



3月2日（日）に、卒業を翌日に控えた3年生の同窓会入会式が開催されました。山田敏一同窓会長より「同窓生たちと親睦を深めながら、ともに後輩たちを支えていきましょう」というメッセージを頂きました。世話人の、英美梨さん、空良さん、琉伽君を中心に、今後も支え合いながら結束を高めていきましょう。

高校生活最後のホームルーム～保護者の方々とともに喜びの時間を共有しました～



3月3日(月)卒業式を終えた後の3学年の最後のホームルームの様子です。卒業生、保護者の方々、3学年担任団ともどもみんな素敵な笑顔をしています。入学から卒業までの3年間には、楽しいことも苦しいこともたくさんあったことと思います。色々うまくいかないこともあったけれど、みんなでなんとか支え合いながら、乗り越えてここまでたどり着いた。だからこそ、安心して涙を見せることができるし、笑い合うこともできる。3年生は、そんな素敵な仲間たちになることができたのではないかと思います。卒業生、保護者の方々、3学年担任団、それぞれがそれぞれに対する感謝を伝え合い、幸せな気持ちで一杯になる最高の時間を共有できました。

卒業生に歌のプレゼント



3月2日(日)の卒業式練習の後に、1・2年生及び教職員が、いきものがかりの「ありがとう」を合唱して7名の卒業生たちに感謝の気持ちを伝えました。その後、全校生徒のメッセージを添えた色紙を卒業生全員にプレゼントしてセレモニーを終えました。卒業生のみなさんに、後輩たちの思いは伝わったかな？

生徒会リーダー研修会



3月27日(木)に、生徒会執行部を対象にした生徒会リーダー研修会を開催しました。令和6年度後期生徒会活動を振り返り、新年度の生徒会活動をさらに充実させるために何ができるか、みんなで真剣に話し合いました。生徒会のリーダーとしての自覚を持って、新年度の真室川校を引っ張っていって欲しいです。

表彰式・修了式・離任式～3名の先生方とお別れすることになりました(涙)～

3月24日(月)に、今年度末で離任される齋藤潤弥校長、岡田顕志(あきもと)事務部長、松澤信高先生の3名とのお別れの会(離任式)を開催しました。齋藤校長先生は、真室川町立大滝小学校で講師を勤めたときに、子どもたちが日々成長する姿に感動し、教師になることを決意したというエピソードを語られました。また、本校との兼務ではあったが、生徒たちの何事にも素直に取り組む姿を見られるので真室川校を訪問するのをいつも楽しみにしていたとも語られました。岡田事務部長は、新聞等各種メディアに多く取り上げられる真室川校の活動に感心しながら、県内で最も生徒・教師・地域の方々の距離が近い素晴らしい関係性を今後も継続してほしいと述べられました。松澤先生は、19年間の思い出はとても語り尽くせるものではないが、とにかく真室川校での教員生活が楽しく充実していたこと、また生徒たちの素直さや人の話を聞く姿勢が素晴らしいこととお話しくださいました。3名の先生方は大変お世話になりました。



齋藤潤弥校長
北村山高等学校へ

岡田顕志事務部長
村山総合支庁建設課へ

松澤信高先生
新庄北高等学校へ



学校HP